

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、持ち直している」

項 目	前回（8年4月判断）	今回（8年7月判断）	前回比較
総括判断	持ち直している	持ち直している	

（注）8年7月判断は、前回8年4月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、持ち直している。生産活動は、弱含んでいる。雇用情勢は、持ち直しの動きに一服感がみられる。観光は、緩やかに拡大している。

【各項目の判断】

項 目	前回（8年4月判断）	今回（8年7月判断）	前回比較
-----	------------	------------	------

個人消費	持ち直している	持ち直している	
生産活動	弱含んでいる	弱含んでいる	
雇用情勢	持ち直しの動きに一服感がみられる	持ち直しの動きに一服感がみられる	

設備投資	7年度は増加見込み	8年度は減少見込み	
観光	緩やかに拡大している	緩やかに拡大している	
企業収益	7年度は増益見込み	8年度は減益見込み	
企業の景況感	「下降」超となっている	「下降」超となっている	
住宅建設	弱い動きとなっている	弱い動きとなっている	
公共事業	前年を上回る	前年を上回る	

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待されるものの、中東情勢や金融資本市場の変動等の影響を引き続き注視する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「持ち直している」

スーパー販売は、総菜や冷凍食品などの飲食料品が堅調であり、前年を上回っている。コンビニエンスストア販売は、弁当や総菜などの飲食料品の需要が引き続き堅調であり、前年を上回っている。ドラッグストア販売は、医薬品や季節品が好調であったほか、インバウンド向けの販売も底堅く推移しており、前年を上回っている。百貨店販売は、国内客への販売が堅調であるほか、インバウンド向けの販売が好調であり、前年を上回っている。家電販売は、エアコンの売行きが引き続き好調であるほか、ゲーム機の人気も底堅く、前年を上回っている。ホームセンター販売は、石油関連商品の販売が伸びたほか、エアコンや園芸用品も好調であり、前年を上回っている。乗用車販売は、新型車投入の効果などから需要が堅調であり、前年を上回っている。

(主なヒアリング結果)

- 値下げに対する反応は大きく、節約志向は続いているものの、即食簡便、健康志向の商品などは高単価でも売行きが良く、ニーズに合致するものには支出を惜しまない傾向もみられる。(スーパー)
- 5～6月は天候不順となる日も多く、来店客数は伸び悩んだものの、価格改定の効果もあり、弁当、総菜、おにぎりなどの売上げは増加している。(コンビニエンスストア)
- 例年より花粉の飛散量が多かったため、アレルギー薬の販売が好調であったほか、気温上昇に伴う外出意欲の高まりを背景に、日焼け止め等の動きも良かった。(ドラッグストア)
- 国内客は、富裕層を中心に堅調な販売が続いている。インバウンドは、東南アジア圏からの客数が伸びており、客単価も高く、想定を上回る売上げとなった。(百貨店)
- エアコン販売は、2027年度の省エネ基準引上げを背景に好調であったほか、ゲーム機の売上げは、値上げ前の駆け込み需要により押上げられた。(家電量販店)
- 中東情勢の影響を受けて、自動車用オイルや塗料等の石油由来商品の需要が増加したほか、エアコンや園芸用品も好調だった。(ホームセンター)
- 環境性能割廃止前の買い控えの反動が一部みられたほか、新型車効果もあり受注は好調に推移した。(自動車販売)

■ 生産活動 「弱含んでいる」

生産活動は、「化学・石油石炭」や「鉄鋼」などが増加しているものの、「金属製品」などが減少しており、全体では弱含んでいる。

- 好調な自動車需要を背景に取引先の自動車メーカーが増産しており、自動車関連向けの受注は安定している。(化学・石油石炭)
- 鋼材メーカーの高炉トラブルにより生産量が大きく減少していたが、高炉の再稼働後に操業度の回復が進み、生産量が増加した。(鉄鋼)
- 前期はホテルや商業ビルなどの新築工事をはじめとする大型案件の新規受注が好調であったところ、当期はこれらの案件が終了しており、工場改築の案件などを受注している。(金属)

■ 雇用情勢 「持ち直しの動きに一服感がみられる」

雇用情勢は、人手不足が続く中、人件費増加等を背景として求人の動きに弱さがみられており、持ち直しの動きに一服感がみられる。

- 最低賃金上昇による人件費の増加から、特に中小企業においては人手不足であっても求人进行を控えているという企業も多い。(職業紹介・労働者派遣業)
- 新卒採用において早期内定制度や入社時期の選択制を導入したことにより、内定者にとって在学中・卒業後の時間が有効活用できるほか、入社後も手厚い研修を受講できるなど、職員満足度の向上につながっている。(宿泊)
- 中東情勢の長期化等により、転職市場では、経済・企業環境の先行きを懸念し、比較的良好な条件の下で就職活動を急ぐ動きもみられた。(公的機関)

■ 設備投資 「8 年度は減少見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」8 年 4-6 月期

- 製造業では、「食料品」などが減少していることから、全体では減少見込みとなっている。
- 非製造業では、「電気・ガス・水道業」などが増加していることから、全体では増加見込みとなっている。

- 今年度について、維持更新に加え、生産能力増強に向けた投資を行うが、前年度に工場の集約や本社の移転によって設備投資額が大きくなっていたため、反動減となっている。(食料品)
- 前年度に大型設備更新を実施したため、今年度に関しては反動減となっているものの、積極的な設備投資スタンスに変化はない。(鉄鋼)
- 老朽化に伴う更新や生産能力拡大に向けて再生可能エネルギー等の設備増設を行うほか、業務効率化やサービス向上を目的とした DX 投資を行う予定である。(ガス・熱供給・水道)

■ 観光 「緩やかに拡大している」

- 観光は、来道客数、外国人入国者数ともに前年を上回っており、緩やかに拡大している。

- 来道客数については、円安や中東情勢の影響による燃油サーチャージの高騰等を背景として、海外旅行から国内旅行へシフトした層による需要増加が見られたほか、GW も好調であり、引き続き北海道観光の人気は高い。(運輸)
- インバウンドについては、韓国や台湾からの観光客が引き続き好調であるほか、北海道の豊かな自然を目的に欧米豪やイスラエルからの観光客も増加している。(生活関連サービス)
- 足下については、ビアガーデンや涼しい気候を求めて来道する観光客が増えているほか、他の都府県の大規模イベントに流れていた宿泊需要が戻り、その傾向が続いている。(宿泊)

■ 企業収益 「8 年度は減益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」8 年 4-6 月期

- 製造業では、「輸送用機械器具」などが増益となっていることから、全体では増益見込みとなっている。
- 非製造業では、「運輸業、郵便業」などが減益となっていることから、全体では減益見込みとなっている。

■ 企業の景況感「「下降」超となっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」8 年 4-6 月期

- 企業の景況判断 BSI は、全産業では「下降」超となっている。
- なお、先行きは、8 年 10~12 月期に「上昇」超へ転じる見通しとなっている。

■ 住宅建設 「弱い動きとなっている」

- 住宅建設は、貸家は前年を上回っているものの、持家、分譲住宅は前年を下回っており、弱い動きとなっている。

■ 公共事業 「前年を上回る」

- 公共事業を前払金保証請負金額でみると、第 1 四半期は、国、北海道が前年を下回っているものの、独立行政法人等、市町村が前年を上回っており、全体では前年を上回っている。

■ 金融 「貸出金残高は前年を上回る」

■ 企業倒産 「件数は前年を上回る」

■ 消費者物価 「前年を上回る」